



oboeが好き！

PART4

AAFC 例会資料

2012年3月4日

大久保 貴枝子-7



ロータ・コッホ

(1935～2003) 20世紀ドイツを代表するオーボエ奏者。カラヤン／ベルリン・フィル黄金時代の立役者。「オーボエを吹いているか、ピアノを弾いているか、それともお酒を飲んでいるか」といわれるほどお酒が好きではあるが、本番では神経質であり誠実な演奏者である。ソリストとしての録音は比較的少ない。

①バッハ ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲 八短調
I～III楽章

16'



宮本文昭

1949年生。オーボエを選んだ理由は、中学2年で音楽家になることを決心したが、年齢的に練習する楽器が残っていなかった。当時は優れたオーボエ奏者がいなかったことなどを父親が考慮した末のこと。2007年演奏活動を終了。現在は指揮者として活躍中。

②クライスラー 愛の喜び
フォーレ 夢のあとに

7'



ハンスイェルク・シェレンベルガー

1948年生。6歳からリコーダー13歳からオーボエを始める。ミュンヘン工科大学で数学の学位も取得。カラヤンの目にとまり1977年ベルリン・フィルの代理奏者として演奏に加わり、1980年正式に首席オーボエ奏者に就任。2001年、30年間のオーケストラ活動に終止符をうつ。表現的確さ、ブレス・コントロールは見事。

③アルミカーレ・ボンキエッリ カプリッチョ

10' 18"



アルブレヒト・マイヤー

1965年生。1992年ベルリン・フィルの首席オーボエ奏者。声楽に没頭してきた少年はプロの声楽家になりたいという誘惑もあったが、オーボエに出会ったことで音楽家を職業として意識するようになり、今日を築く。

④リムスキー・コルサコフ オーボエのための変奏曲ト短調

9'



トーマス・インディアミュレ

1951年生。フライブルク国立音楽大学でハインツ・ホリガーに師事。オランダ室内管弦楽団、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団のソロオーボエ奏者を務め、その後ソリストとしてヨーロッパ各国を始め、アメリカ・カナダ・日本等で演奏活動を行っている。さりげなく、情感豊か。

⑥ロヴェッリョ 歌劇「仮面舞踏会」の旋律による幻想曲 作品44

10'

